（別紙様式４－１）

翔陽高等学校　令和元年度（２０１９年度）学校評価表

1　学校評価計画について

1 学校教育目標
心豊かで、活力にあふれた個性ある生徒を育成し、将来、世界中で活躍できるグローバルな視点と能力を持つ、故郷熊本を支える地域人材の育成を目指す。

2 本年度の重点目標
（1）総合学科だからできる幅の広い教育活動をとおして、グローバルな視点と能力を身につけた地域に貢献できる人材を育成する。 （2）進路目標達成のためにキャリア教育を推進し、望ましい職業観・勤労観を育成する。 （3）全ての教育活動をとおして規範意識を高め、自信と誇りを持った生徒を育成する。 （4）人権尊重の精神を養い、互いの個性を尊重し、自他を大切にする生徒を育成する。

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	総合学科の特色づくり	総合学科の工夫・改善	○総合学科における新学習指導要領への対応	○授業研究プロジェクトチームを発足し、新学習指導要領及び新しい入試制度に対応した教育内容についての検討 ○生徒授業評価によるＰＤＣＡサイクルの確立	Ａ	○職員が新学習指導要領を念頭に置き、授業を行う上でＰＤＣＡサイクルを意識した①カリキュラム・マネジメント全体計画、②カリキュラム・マネジメント全体計画チェックシート、③カリキュラム・マネジメント全体計画採点表の作成を行った。作成においては、先生方からアンケート等を取り、現在の生徒像、授業の振り返り等を自己分析しながら作成することが出来た。今後はこのシートを活用し、職員も自己評価を行い授業改善に取り組むことができる良い機会としていきたい。
		総合学科のＰＲ	○定期的な情報の発信	○ＨＰの随時更新 ○パンフレットや広報誌の活用	Ａ	○昨年度、「色々な行事、取組がなされているがＨＰに掲載されていない、掲載時期が遅い」等の課題が指摘されていたため、職員に現状の打開に向けて、呼びかけを行った。昨年度より改善が見られ、記載回数も増えてきている。 ○パンフレット作成においては、プロジェクトチームを編成しているため、中学生に好評である。また、中学校説明会におけるプレゼンテーションも好評であった。
	キャリア教育の推進	望ましい職業観・勤労観の育成	○進路意識の啓発	○外部講師による講演会の実施 ○先進地視察研修の実施 ○進路体験発表、キャリアガイダンスへの積極的な参加 ○各年次での保護者向け啓発活動の実施	Ａ	○昨年度に引き続き「くまもと教育の日」講演会を実施した。薬師寺の大谷徹奘氏による『面白く生きよう』と題した講演は、これからの前向きな生き方を考える上で、非常に示唆に富んでいた。また、生徒アンケートからも有意義性を見いだすことができている。
		キャリア教育のシステム化	○進路選択に合わせた適切な科目選択	○授業見学等をとおして科目におけるガイダンスの充実	Ａ	○系列・類型ガイダンスの内容を見直し、今年度は希望教科・系列への授業見学の回数を増やした。また、３年次から

						１年次に対して科目選択に係るアドバイスを行う場面を多く設定した。科目選択ガイダンス期間も長めに設定し、生徒が十分時間をかけて科目選択できるようにした。さらに、生徒の多様な進路や科目選択に係る相談に適切に対応できるよう、職員向けに科目選択のための研修を実施した。
			○科目「産業社会と人間」の再点検及び活性化	○体験型学習の充実 ○自らの進路選択との関係性を明確にした班別プロジェクトの実施	A	○班別プロジェクトではクラス発表会、年次発表会を実施し年次代表２組が翔陽祭で充実した発表ができた。
			○インターンシップの活性化	○企業開拓及び全職員の協力による事前事後指導の充実 ○「キャリアファイル」の有効活用	A	○事後アンケートでは、「将来のことについて考える機会となった」と回答した生徒が９８．０%、「県内企業の魅力を知る機会となった」と回答した生徒が９２．３%であった。自分の適性や社会人としてのマナーやルールを学ぶ機会にもなり、勤労観・職業観を育成できた。 ○各学年「キャリアファイル」の作成を行っているが、若干活用の部分で個人差が見られる。
			○デュアルシステム、総合的な学習の時間の活性化	○全系列でデュアルシステムを継続 ○まとめとして「総合的な学習の時間」成果発表会の実施	A	○今年度も１月下旬に、「総合的な学習の時間発表会」を実施し、３年次の系列代表生徒が全校生徒に向けて立派な発表を行い、１・２年次生へ良い刺激を与えた。 ○全系列で１３事業所に３９人の生徒が訓練を受け、関連のある進路先に合格内定いただいたのは約７２%であった。進路選択に大きなキャリア教育の一環を担っている。
	開かれた学校づくり	学校評価の着実な実施	○各部・各学科・各年次の取組の発信	○ＩＣＴ委員会・総務部を中心に各部・各学科・各年次の連携を深め、学校での最新情報を計画的に発信	A	○各系列、校務分掌、部活動等と連携し定期的にＨＰの更新を行うことで、学校の様子を発信することができた。また学校安心・安全メールを活用することで保護者への連絡等を効果的に行うことができた。
			○地域企業へ本校教育活動の発信	○菊池地域企業推進プロジェクト、地域企業との情報交換会、地域工場見学会等の実施	A	○大津町企業連絡協議会や菊池地域、工業関係事業所との情報交換会へ参加し、本校の活動等を発信した。また、各事業所にはキャリアサポーターが適宜訪問を行い、情報交換を実施した。
学力向上	学力の向上	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究	○教科横断的な視点に立った授業及びＡＬ型授業の推進	○授業研究プロジェクトチームによる職員研修の充実	B	○プロジェクトチームによる職員研修「教科等横断的な視点に立った授業づくり」を企画・運営することができた。教科・系列の枠を越えた授業づくりのアイディアを共有することができ、更に、職員間のつながりを深めるきっかけづくりができた。また、外部講師を招聘しての研修も実施し、学校を取り巻く社会の変化やこれからの学校の抱える課題等について御講演いただいた。 ○生徒授業評価をしたものの、ＰＤＣＡサイクルの確立まで

						は至っていない。授業評価をとおして、生徒・職員相互が効果的な振り返りができるよう、評価の在り方・内容そのものの検討をしていく必要がある。カリキュラム・マネジメント全体計画のＰＤＣＡサイクルに連動した形での評価（ルーブリック評価等）の素案づくりに着手していきたい。
			○公開授業校内参観率の向上 ○外部からの授業参加者数の　増加	○研修立案 ○対外的行事に合わせた授業参観の企画	B	○校内における授業参観率は昨年度同様で向上していない。次年度は、年度当初に教科・系列の枠を越えた少人数グループを編成し、年間をとおしてグループ内での相互授業参観、授業の振り返りを企画する予定である。 ○校外からの学校関係者や保護者による授業参観者数は、あらゆる学校行事との抱き合わせで授業参観を設定したため、今年度参加者数は２３５人（昨年度７３人）であった。
		学習習慣の確立	○家庭学習１時間＋α ○学習のＰＤＣＡサイクルづくり	○学習時間調査の実施、結果分析、改善策の提案・実行 ○『教務通信』による学習アドバイス ○スコラ手帳の効果的活用法の提示	C	○昨年同様に家庭学習時間調査を年４回実施した。前期中間考査前期間（第１回）では全学年の１日の平均家庭学習時間は９６．５分、約７９%の生徒が６０分以上の家庭学習時間に取り組んでおり、昨年度並みであった。一方その月に定期考査が実施されない期間（第２回、第３回）では、同様の平均家庭学習時間は３６．４分であり、約３２%の生徒しか６０分以上の学習に取り組んでいなかった。次年度への継続的な課題である。 ○年間５回『教務通信』を発行し、教室掲示・ＨＰへの掲載を行った。 ○上記『教務通信』の中で、手帳の活用方法や実際の生徒の活用例を紹介した。次年度から始まる『キャリアパスポート』の作成に繋がるよう手帳活用の充実を図らせたい。
		読書習慣の確立	○朝読書の充実 ○図書館利用者の増加	○朝読書コンクールの実施 ○朝読書用図書の積極的購入 ○図書館企画の実施 ○書籍内容紹介のＰＯＰ・情報紙作成	B	○朝読書の充実に向けてコンクールを実施し、図書購入・紹介にも力を入れてきたが、生徒の自主性を確立するには課題が残る。
進路指導	進路保障	進路目標の達成	○就職目標 進路目標の１００%達成 県内就職率８５%以上 公務員合格延べ４	○全職員面接２回実施 ○専門系列と２・３年次との進路会議 ○模擬面接の充実 ○作文・小論文指導の充実 ○進学係・公務員担当による面談の充実 ○関係諸機関（大津町役場、県北本部）との	B	○全職員による模擬面接２回、管理職・主任主事面接１回を実施できた。 ○小論文・作文指導は進学係が計画し全職員で取り組むことができた。 ○就職希望者全員が１１月末には決定し、併せて、県内就職率８５．６%も達成した。

			５人以上 〇進学目標 国公立大学合格５人以上（高専含む） 〇故郷熊本を支える地方創生への積極的推進 〇高い目標へ挑戦及び個性を生かした推薦入試への挑戦	連携 〇３年次の職員と進路指導主事との定例会を開催し、目標を共有化 〇個性を活かした大学推薦入試への挑戦		〇国公立大学合格１人 〇公務員においては、国家一般に加えて、警視庁、京都府警、高森町役場等に延べ３１人合格した。
		早期離職・上級学校退学の防止	〇適応指導の充実 〇進学就職内定者指導の実施	〇熊本しごとコーディネーターとの面談でミスマッチの無い受験 〇生徒の目線にたった離職・退学防止のための年次と連携したＬＨＲ指導	Ｂ	〇しごとコーディネーターとの面談を実施できた。進路室へ相談に来る生徒も増え、進路室の職員全員でアドバイスすることが出来た。 〇ＬＨＲをとおして、職業観を持たせる進路学習の機会を設けることが出来た。
		熊本県・県北本部、地元２市２町、大津町、大津町企業連絡協議会との連携、上級学校との連携	〇地方自治体の地方創生へのプランニング、積極的協力参加・協力 〇保護者の進路意識の向上	〇オープンキャンパスへの参加 〇上級学校訪問等の充実 〇効果的・継続的な地方創生を目指し、地方自治体と連携 〇保護者の理解を深めるため、年次保護者会等を実施	Ｂ	〇希望する進学校におけるオープンキャンパスの参加が見られた。 〇総務部・育友会と連携し上級学校訪問を行った。 〇大津町企業連絡協議会や熊本県県北地域本部の企業見学会や企業ガイダンスに参加することが出来た。また、６月には大津町企業連絡協議会の企業が本校でガイダンスを行った。 〇各年次、適時に年次集会等を開催することが出来た。
		基礎学力の向上	〇教務部との連携（目標を設定した効率的な学習） 〇図書部との連携	〇チャレンジタイムの充実 〇進路指導部から、全校集会等において読書の意義等について説明	Ｃ	〇チャレンジタイムについては、行事消化的になってしまってはいないか検討が必要である。年次や教務部と連携し効率化する必要がある。 〇全校集会等で読書の大切さを説明することができた。
生徒指導	生活指導	基本的生活習慣の確立	〇整容指導の徹底 〇始業時間の厳守 〇挨拶の徹底 〇特別指導件数１０件以下 〇無断アルバイトの根絶	〇教職員の共通理解での連携と生徒・保護者への周知徹底 〇年７回の容儀検査の実施 〇年３回の生活指導日の実施 〇段階的指導の推進 〇登校指導・巡回指導 〇全校集会での啓発、担任指導の充実、保護	Ｂ	〇整容指導に関しては、大幅に乱れている生徒は少ない。しかし、継続的に指導をしていく必要がある。 〇特別指導は減少傾向で、特別指導を行った生徒も指導後は落ち着いて生活を送り、効果のある指導になっている。 〇アルバイトのメリット、デメリットを生徒に話し、無断アルバイトの根絶に取り組んでいきたい。 〇校内における盗難件数は０件であった。

			○盗難件数０ ○二重ロック率１００％	者への連絡・啓発 ○交通委員会による啓発と点検 ○年間をとおしての朝の登校指導		○自転車の二重ロックに関しては、９５．６％と高い値であったが、１００％に向けて今後も指導にあたっていきたい。
		交通安全教育の充実	○交通安全に対する意識の向上 ○重大事故件数０	○交通安全講話・通学方法別集会の実施 ○単車通学生への実技講習及び安全指導（年３回） ○自転車通学生への安全指導 ○危険予知能力を向上させるためのＬＨＲの実施	Ｂ	○１３件の事故報告を受けている。 ○ながらスマホの危険性について指導を行った成果として携帯電話を操作しての登下校する姿は少なくなってきた。 ○交通講話、交通関係集会等を随時行うことができた。
		自主自立を養う生徒指導	○生徒会活動の活性化 ○さまざまな活動への意欲的参加	○生徒総会の充実 ○体育大会・文化祭等の学校行事の充実	Ａ	○生徒総会も充実し、体育大会や翔陽祭では、生徒が主体的に活動する姿が度々見られた。 ○学校が楽しいと答えた生徒は９３％と昨年度より５ポイント上昇した。
	ボランティア活動の推進	心豊かな生徒の育成	○積極的なボランティアへの参加	○ボランティア委員会活動の活性化 ○タイムリーな活動紹介と募集	Ａ	○適時な活動紹介を努め学校評価アンケートで、昨年度より数値が上回った。
	部活動の推進	心身の健全育成	○部活動加入の推奨 ○自尊感情の育成 ○奉仕精神の育成	○部活動見学会の実施等により、加入率８０％ ○キャリア教育との連携 ○部活動実績のＨＰでの紹介	Ａ	○部活動加入率９３％（４月当初）であった。 ○多くの部活動が、地域との連携を図りながらの取り組みを行ったり、清掃活動に取り組んだりした。
人権教育の推進	人権意識の向上	確かな人権感覚の育成	○人権問題についての正しい理解と認識を深める。 ○身の回りにある不条理な差別を見抜き、正しく行動できる力の育成	○定期的な職員研修の実施と校外研修への積極的な参加 ○生徒人権集会、人権教育ＬＨＲ、人権教育講演会の実施 ○相談室だより発行による啓発	Ａ	○解放保護者会と職員との交流学習会（教育集会所学習会）を実施し、部落差別の現実を学び、自分事として人権感覚の涵養を図ることができた。 ○生徒人権集会では、人権バンドと学習会に集う解放高校生が連携して、人権の大切さを全校生徒に訴えた。生徒からは、歌詞に込められた思いを豊かな感性で受け止める感想を多く得られた。 ○水俣病差別の実態について、語り部から学び、自らの課題として受け止めることができた。
	教育相談	教育相談活動の充実	○一人ひとりの生徒のニーズに応じた支援体制の確立と強化 ○悩み相談体制の充実	○職員同士の情報共有体制の強化 ○保護者、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー、専門機関との連携	Ａ	○毎週金曜２時間目、養護教諭・年次主任と情報交換を実施した。必要に応じて管理職も参加した。 ○生徒理解研修を実施し、課題を抱えた生徒への支援体制の充実を図った。 ○「心と体の振り返りシート」を３回実施し、その結果を見て、スクールカウンセラーによる面談を行った。継続的な

				○個別の教育支援計画・指導計画の策定		面談は、生徒の心の安定に繋がった。 ○学校が把握している発達障がいのある生徒個別の教育支援計画・指導計画を策定して、一人ひとりの生徒のニーズに応じた支援をした。
	命を大切にする心を育む指導	自他を尊重する心と社会規範を遵守する生徒の育成	○「生命の大切さ」の指導の徹底 ○生徒の自発的･自立的な道徳的行為の涵養への取組	○道徳教育全体計画の検証 ○命を大切にする観点からの授業実施 ○生徒・保護者への広報・啓発	A	○キャリア教育をとおして、社会貢献の意義を学び、また、ボランティア活動で自他を尊重し、他者に思いを馳せる心を培うことができた。 ○全ての領域・分野で継続した取り組みが必要である。 ○人命救助で県教育委員会から善行表彰を受けた生徒がいる。
いじめの防止等	安心安全な学校生活	いじめを生まない環境づくり	○いじめ防止対策へ向けた組織対策の確立 ○重大対応マニュアルの職員への周知 ○保護者との連携強化 ○いじめ未然防止と早期発見 ○ＳＮＳ被害防止への取組	○いじめ防止対策委員会（３回）・小委員会（４回）の開催 ○家庭訪問及び定期的な個人面談の実施 ○いじめ実態把握調査の実施（６月、１１月にアンケート実施） ○スクールカウンセラーによる教育相談の活性化 ○外部専門家からの指導助言 ○生徒会、委員会による啓発活動 ○スクールサインを利用した早期発見 ○ＳＮＳ被害防止のための講演会や全校集会での啓発 ○保護者集会での啓発	A	○いじめ防止等対策委員会については計画に実施することができた。委員会でいじめを認知した生徒は昨年度より大きく減少し、経過観察を要する生徒への対応、保護者との連携については迅速に対応することができた。また、全職員で情報を共有することができた。 ○スクールカウンセラー、教育相談担当、養護教諭、担任、年次との生徒の情報共有等の連携を図ることができた。 ○スマートフォン使用についての講演会を開催し犯罪防止に努めた。結果、ＳＮＳ関係の大きな犯罪やトラブル等は発生していない。
保健管理	健康教育	健康な体と豊かな心の育成	○健康観察の充実 ○健康教育の充実 ○健康診断後の受診率向上 ○よりよい生活習慣の推進	○健康観察の結果を基に教育相談等と連携し、対応について話し合う（週1回実施。確実な記録） ○生徒･保護者への情報の共有化と個別面談の実施 ○生徒保健委員会活動の活性化	A	○毎週金曜２時間目、教育相談室、年次主任と情報交換を実施し、情報の共有、早めの対応を心がけた。 ○健康診断後に必要な生徒へ受診を勧めるとともに保健指導を実施した。受診率が上昇したが、自ら生活習慣を見直し、体調管理ができる生徒の育成を今後もめざしていく。 ○手書きの「ほけんだより」の発行、翔陽祭でのコンビニ活用の展示など、活発に活動することができた。委員会全員で協力し合い、自分の意見を表現しやすい雰囲気づくりの中、前向きに活動する保健委員会をめざしていく。 ※「ほけんだより」は県最優秀賞を受賞した。

教育環境整備	安全管理	救急救命職員研修の充実	○救急救命救急蘇生法の実技講習計画と実施	○緊急時のフローチャートに沿ってシミュレーションを実施 ○エピペンについて職員へ周知	A	○年度当初に、エピペンについての学習会を年次で実施し、その後、ＡＥＤ、エピペンの使用方法を含む救急蘇生職員研修を行った。 ○救急車要請は現在の時点で２件、迅速に対応することができた。職員・生徒へのＡＥＤ周知、緊急時の対応訓練を今後も継続していく。
		施設設備の安全管理	○危険箇所への確実な対応 ○安全点検の確実な実施	○生徒指導部・保健部と事務部が連携して対応 ○「安全点検週間」を設け実施率の向上を目指す ○点検結果をまとめ、回覧し、必要に応じ全職員へ周知	B	○毎学期に１回の安全点検を実施した。次年度は職員だけではなく生徒委員会とも連携し、危険箇所の改善・改修１００％を目標に保健部・事務部と連携して行いたい。
		危機管理マニュアルに沿った取り組みと校内の安全点検	○安全点検の徹底 ○普段からの事故防止 ○発生したときの対応	○安全点検の充実及び防災避難訓練の徹底校内の避難経路の作成登下校時の指定避難場所の周知	B	○放送を使わないで防災避難訓練を行い、各棟への指示を行えるような避難経路を作成できた。 ○登下校時は、連絡網等による保護者に連絡と避難場所の周知を徹底しなければならないと感じている。
	学校版環境ISOの推進	環境美化の徹底と環境問題への意識高揚	○５Ｓ活動の充実 ○節電・節水（省エネ推進） ３～１０％の削減 ○ゴミの減量化 可燃ゴミ重量昨年比、５％減少	○整理・整頓・清掃・清潔・躾 ○ゴミ分別の徹底 ○ゴミ持ち帰り活動 ○環境美化コンクールの実施 ○「節電・節水」の掲示物等の活用	B	○５Ｓ活動は関係分掌や職員の助言により充実していた。 ○ゴミ減量化・分別・持ち帰り活動は、以前から生徒・職員の意識高揚が確立しているため徹底できた。 ○節電・節水（省エネ推進）は、生徒委員会活動の中で掲示物を作成し掲示した。水道料金に関しては５％以上の削減ができた。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	学校行事をとおした連携	学校行事等の開放と交流	○育友会との連携	○一人一役活動　（翔陽祭、長距離走大会、登校指導、校外補導等） ○学校支援、海外学習の支援	A	○保護者の一人一役による活動で今年も育友会各事業を順調に運営できた。保護者の協力に深く感謝したい。ただ一方で働き方改革も考慮しながら今後の活動のあり方も検討していく必要がある。行事の精選化や統廃合など今後の課題である。 ○翔陽祭バザーでは保護者協力の下、例年とおりのメニューを販売することができた。長距離走大会の豚汁支援では豚汁の準備・調理・交通整理など保護者の参加率が高く、運営が大変スムーズであった。 ○年３回の一斉登校指導及び校外補導をとおして、保護者が生徒の安全確保と登校状況の実態を把握することで、学校への理解を促すことができた。やや参加が低調だった。

			○同窓会との連携	○学校支援、登校指導、後輩への激励 ○海外学習の支援	A	○県外の部活動大会や海外派遣プログラムの生徒に対して助成金をいただいた。 ○翔陽祭で今年から販売ブースを作り卒業生が作った農産物など多くの物品が販売され、連携が深まった。
			○地域住民との連携	○翔陽祭での物品販売 ○親子乗馬教室 ○地域花壇の管理	A	○翔陽際で物品バザーとして保護者からの物品提供品を販売している。 ○大津町役場との連携で夏休みに親子乗馬教室を開催し、乗馬体験を実施した。 ○美咲野小学校と年２回花作り教室を開催し、交流を深めている。
			○近隣の小学校・大津支援学校との交流及び共同学習	○農作業体験学習 ○共同学習	A	○毎年、室小学校との交流学習で、野菜（大根や白菜）の収穫を行い、生徒・児童の交流を深めている。 ○大津支援学校の児童がどんぐり拾いや馬場の見学等交流を深めた。
	保護者との連携	学校理解の推進	○育友会総会等の出席率向上 ○保護者への連絡の徹底 ○保護者との情報共有	○ＰＴＡ総会、公開授業週間を活用した学校教育活動の理解促進 ○学校安心メールの活用 ○ＰＴＡ会報の充実	A	○育友会総会は今年60%以上の出席率となり、昨年度から大幅に増加した。今後も日程等の見直し、内容、時間短縮などさらに改善していきたい。 ○保護者への緊急連絡から委員会の連絡など幅広く目的に応じて、随時利用している。登録者数も増加しているが100%登録を目標としたい。 ○年３回の発行で、計画的に発行ができている。計画的に編集会議が開催され、記事も充実している。
	地域との連携	防災体制の充実	○地域の産業振興に係る施策の実現を目指す	○地域関係機関や役場と定期的に意見交換 ○地域と連携した教育活動の評価と点検 ○避難所運営協定に基づく「覚書書」の作成及び締結	A	○室北区や大津町の防災訓練に参加したことで町の取組を理解でき、地域防災担当者、住民とのつながりを持つことができた。 ○大規模災害発生時に本校が避難場所となるため、大津町の防災担当者と連携をとり、災害時の初動対応などさらに把握する必要がある。 ○熊本地震に係る全校集会を実施した。防災教育充実のため来年度も継続して実施していきたい。 ○防災訓練は放送機器の不具合で放送設備を使用せず実施したが、新たな課題を発見することができた。 ○避難所運営協定に基づく「覚書書」の作成の為、関係機関との連絡調整を行い、来年度当初には締結できる方向性を見いだすことができた。

４　学校関係者評価
※学校懇話会での委員評価を記載 〇学校評価を見て、ほとんどＡとＢでよい評価であり、高校入試の倍率も高く、行きたい学校として認識されている。総合学科として、幅広く学べる。役場にも翔陽高校ＯＢがいる。地元企業にも多く就職されておりありがたい。 〇先生方の熱意を感じる。いじめ未然防止においては、減少している事が評価される。 〇先生方の取り組みに感銘を受けた。企業としてＰＤＣＡしているが、学校も取組をしていることがよく分かった。 〇翔陽高校とは、１年交流、２年インターンシップ、３年はデュアルシステムを２０回行って、保育園のことを学んでもらった。生徒も園児も慣れるまでに時間を要するが、最後は、お互い涙でお別れをするまでになった。生徒は挨拶もよく、笑顔もよい。８人中７人が保育士になりたいと言っているのがうれしかった。２年前の生徒は、短大を卒業して、今年、本園に就職してくれた。 〇学校評価の結果を説明してもらったが、２点後半から３点の前半が多く、遠慮しているのではないか、内容によっては３点後半や４点満点がついてもよいかと思う。以前、「挨拶も積極的にする雰囲気をつくってほしい」と発言した。成果は出ていると思う。野球部等、運動部は走っているのにかかわらず止まって挨拶してくれるようになった。道路の横断歩道、渡りきった後、一礼していった生徒もいた。また、翔陽高校の生徒が人命救助で新聞に載ったが、簡単にできることではない。とても素晴らしい。 〇キャリア教育に力を入れて進められているので感心した。大津中、大津北中でもキャリア教育を進めていこうと話をしている。勉強して点数がとれるだけが「よい」ではない。どんな大人になり、どんなことをしたいかが大事。キャリア教育の視点で教育を行い、子供たちが意欲を高めることが大事と考える。学習習慣の確立は、中学校も苦慮しているが、高校も苦労されていることに驚いた。 〇中学校までは不登校だったが、翔陽高校で環境が変わり、部活動と学業と頑張って、無事に卒業できた生徒もいる。 〇大津企業連主催の「お仕事発見フェア」「大津町企業訪問」等行っている。翔陽高校の就職状況を聞くと、地元企業にも多く入社している。「大津町広報誌」で大津町企業紹介を行っているので、生徒にも是非、紹介してほしい。大津町民は見ているかもしれないが、その他の市町村に住んでいる生徒にも見る機会をつくってほしい。 〇肥後大津駅で７０過ぎの高齢のご婦人が、荷物をたくさんもって降りてこられた時、翔陽高校の生徒が「荷物もってあげます」と言って荷物を持ち、ゆっくり一緒に歩いて出口まで付き添っていた。他校生もたくさんいたが、だれもできなかった。その生徒の対応は立派であった。また、肥後大津駅を早朝利用する生徒は、立ち止まって挨拶をしてくれる。 〇コミュニケーションが不得手の人がいる。登校中の小学生に「おはよう」と声をかけても元気よく挨拶する児童、下向いてぼそぼそと言う児童様々である。小学校低学年から、挨拶やコミュニケーションが必要と感じる。家庭教育も大切ではないか。

５　総合評価
（１）学校教育目標：目標の下「自ら気づき、考え、行動する」をスローガンとして、各学年等、具現化に向け「くまもと教育の日」の講演等、あらゆる場面において年度当初より生徒へ投げかけを行ってきた。その成果は、進路実現、地域からの評価等で成果が見られるようになってきている。 （２）重　点　目　標：新学習指導要領を念頭に置いて、授業改善プロジェクトチームを発足し、カリキュラムマネジメント全体計画、チェック表、採点表を作成した。教職員自らが授業を振り返るＰＤＣＡサイクルを意識した、授業を大切にするシステムの構築が出来た。 （３）自己評価総括表：生徒においては、昨年度と比較して、９項目で評価が下がり、４項目で評価が上がった。平均値は昨年度と変わらず「３．０」であったが、災害対応、学習意欲、情報機器を中心とした施設整備の評価が下がり、ボランティア、制服の着こなし、自分は大切にされていると感じる、保健室の対応に関する項目は昨年度より高いものとなった。学校生活、授業に関する項目で評価は高いが、昨年度に続き、家庭学習に関する項目に課題がある。引き続き、家庭学習の習慣化を目指し宿題・課題などの取組を継続していく必要がある。また、「困ったときに先生方が親身になっ

て相談に乗ってくれる」項目が下がっていることを真摯に捉え改善に取り組んでいきたい。
また、保護者においては、昨年度と比較して、８項目で評価が下がっており、平均値が「３．１」から「３．０」となった。学校の取組の共有、熊本地震へのその後の対応、本校職員の電話対応、要望や意見を取り入れて教育活動をしているかの項目、教科指導、生徒相談、登下校指導、施設整備の項目でポイントが下がった。このことは、全職員で共有し、改善に向けての取組を行っていきたい。しかし、「本校には他校に比べ特徴がある」「子どもを入学させて良かった」という項目では、昨年度に続き評価を頂き、実践的な学習、授業改善の取組に関しても高い評価を頂き今後も継続していきたい。

６　次年度への課題・改善方策

（１）１年次においては、「産業社会と人間」「班別プロジェクト」等をとおして、進路決定を意識した取り組みを実施していきたい。１年次の時点から総合的な探究の時間ではインターンシップの実施準備や小論文など文章力の向上を目指した取り組み、進路先を探索する能力の育成を目指したい。特にインターンシップに関しては、夏休み前までに実習先を決定し、その実習先のことを調べ、どのような事を目標にインターンシップに臨むのかを学習してから実施したい。

（２）２年次においては、来年度は進路目標を達成する学年である。進学・就職に関わらず、正しい判断力のもと、責任を持った行動ができる人間性を育んでいきたい。年次全体で挨拶はよくできているので、今後も継続させ、明るく素直な好感を持っていただける人材の育成をしていきたい。

（３）３年次においては、生徒の夢実現に向けて、担任を中心として、進路指導部と強い連携を取りながら、「就職」「公務員」「大学進学」それぞれの指導を充実させていく。面接指導は、勿論であるが、小論文指導や学力指導など、チームを作って指導にあたることが必要である。特に、国公立大学進学においては、１年次の早い段階から系列と連携を取りながら指導していく必要がある。

（４）授業改善プロジェクトチームによる職員研修「教科等横断的な視点に立った授業づくり」を企画・運営することができた。教科・系列の枠を越えた授業づくりのアイディアを共有することができ、更には職員間のつながりを深めるきっかけづくりができた。しかし、生徒授業評価をしたものの、ＰＤＣＡサイクルの確立までは至っていない。授業評価をとおして、生徒・職員相互が効果的な振り返りができるよう、評価の在り方・内容そのものの検討をしていく必要がある。カリキュラム・マネジメント全体計画のＰＤＣＡサイクルに連動した形での評価（ルーブリック評価等）の素案づくりに着手していきたい。

（５）「一人一役」のあり方について総務部や育友会執行部で話し合い、育友会活動が継続性に保持されながらも担任や保護者役割の軽減について広く意見を取り入れ、改善できるよう努力したい。また、育友会活動としての行事の見直しを行い、行事の精選・統廃合など検討していきたい。

（６）高卒求人票の書式及び内容が見直しになる。生徒が就職先を決定していく際に不都合がないように３年次と連携して指導をしていく。また、大津町企業連絡協議会や熊本県県北広域本部、ハローワーク菊池等との連携を深めていく。さらに、来年度から大学入試制度が変更になる。特に総合型選抜（ＡＯ入試）や学校推薦型選抜（推薦入試）と呼称の変更だけでなく、一般選抜も含め、高校３年間の活動履歴や資格等も評価対象となる多面的・総合的評価入試になってくる。そのようなことを踏まえ、年次職員、生徒や保護者への情報提供を行っていく。

（７）「交通安全教育の充実」に関しては、視覚的な部分に訴えるという事もあり、スタントマンの実演などを取り入れる計画をしている。「無断アルバイトの根絶」については、家庭の経済的な状況等を見て柔軟に対応し、申請を許可していきたい。また、３年次の進路が決まった者に関しては、長期休暇等のアルバイトを認めるなどの措置を検討していく必要がある。特別指導の在り方については、合理的な配慮等が必要な生徒に対して、外部等とも連携し考えていく必要がある。

（８）生徒保健委員会のさらなる活性化をめざしたい。日常の活動や学校行事などの活動を生徒が意欲をもって前向きに取り組めるよう、定期的な委員会集合、仲間づくりを意識して指導を継続していく。また、欠席、遅刻が多い生徒への面談を引き続き行くこと。担任、教育相談、年次主任、スクールカウンセラーとの連携をさらに強化し、情報を共有、早めの対応を意識していく。

（９）朝読書の充実を図るために、年２回のコンクールを実施し、生徒の自主的な取組方にまで踏み込んだ指導にしていきたい。また、情報提供の仕方として、生徒図書委員による朝読書時間を活用した本の紹介などを行っていきたい。さらに、多読賞表彰などを充実させ、読書推進を図る。